

広島市スポーツ振興審議会第４回スポーツ振興計画検討部会 会議録

開催日時

平成２１年１０月２１日（水） 午後３時～午後５時１５分

開催場所

広島市中区地域福祉センター５階大会議室

出席者

- １ 委員１１名中９名出席
東川部会長、小野副部会長、阪田委員、崎田委員、曾根委員、田川委員、鍋島委員、
西野委員、萩原委員
（欠席：中本委員、本谷委員）
- ２ オブザーバー３名中１名出席
中野オブザーバー
（欠席：新出オブザーバー、富中オブザーバー）
- ３ 事務局（市）
市民局文化スポーツ部長、スポーツ振興課長、
教育委員会学校教育部指導第一課文化・スポーツ教育担当課長

会議次第

- １ 開会
事務局から主要審議事項を説明
- ２ 議事
 - （１） 計画の構成について
 - （２） 計画策定の基本的な考え方について
 - （３） 計画策定の背景について
 - （４） 計画の基本理念等について
 - （５） 推進施策について
- ３ 閉会

公開・非公開の別

公開

傍聴者

なし

会議資料

広島市スポーツ振興審議会第4回スポーツ振興計画検討部会 次第

広島市スポーツ振興審議会スポーツ振興計画検討部会委員等名簿

第4回スポーツ振興計画検討部会における主要審議事項について

議事の(1)関係

広島市スポーツ振興計画（仮称）の構成（案）

議事の(2)関係

計画策定の基本的な考え方（案）

議事の(3)関係

計画策定の背景

議事の(4)関係

基本理念とその実現に向けて

議事の(5)関係

ア 計画の施策体系（案）

イ 施策推進の方向性について

【参考資料】

(1) 国、広島県、政令指定都市、東京都のスポーツ振興計画の構成

(2) 国、広島県、政令指定都市、東京都のスポーツ振興計画の施策体系

会議の要旨

1 開会

< 第4回スポーツ振興計画検討部会における主要審議事項について >

（事務局より説明）

2 議事（「 発言の要旨」参照）

(1) 計画の構成について

（説明内容について意見等なし）

(2) 計画策定の基本的な考え方について

（説明内容について意見交換）

(3) 計画策定の背景について

（説明内容について意見等なし）

(4) 計画の基本理念等について

（説明内容について意見交換）

(5) 推進施策について

（説明内容について意見交換）

3 閉会

発言の要旨

【議事の(1)：計画の構成について】

〔東川部会長〕

特に意見がないようであるので、広島市スポーツ振興計画（仮称）の構成についてはこの方向でいかせていただきたい。

【議事の(2)：計画策定の基本的な考え方について】

〔東川部会長〕

計画策定の趣旨、あるいは位置づけについては、基本的には動かしがたい内容であるが、この部分について意見はあるか。

ここで、課題になっていることは、3の計画期間である。かつて部会の中で何年くらいを見越していくのかという意見があり、事務局も10年を目処にとの意見があった。第5次広島市基本計画との整合性ということもあると思う。このことについては10年ということではないかと思う。委員の皆さんからも10年は長すぎる、社会の変化の中でどうだろうかということで、原案としては、それを前期と後期に分けて、中間年の前期が終わったところで評価をして、後半の計画をどうするのかという進め方にしている。意見の中に中野オブザーバーから前期・中期・後期といった3つに分ける案もあったかと思うが、逆にあまり細かく分けてしまうことで計画の推進が難しくなることもあるかなということで、原案は前期と後期で中間年に評価をするという考え方である。いかがでしょうか。

〔田川委員〕

1の計画策定の趣旨のところで、「今後とも」という表現があるが、新しいスポーツ王国ということからいうと、「今後とも」というと今までと変わらず、今後も同じようなことをし、ただ一層効果的に推進するということになる。そこは「今後は」という表現に直せないかと思う。今後はさらにこういったことを充実していきたいとした方が、新しさというものが出てくると思う。

〔東川部会長〕

確かに初めて出す計画なので、その辺の表現の仕方を検討したい。

西野委員に聞きたいが、いろいろな計画で障害者の「害」を最近は一ひらがなで書くことが増えているように思うがその辺は大丈夫か。

〔西野委員〕

私どもは、できるだけ障害の「害」を一ひらがなで書くようにしている。

〔東川部会長〕

後ほど検討していただく柱として「障害者スポーツ」ということが出てくる。これは個人的な意見であるが、こういった柱を出していくに当たっては、言葉への配慮も必要かと思う。

先ほどの項目も含めて、今日の資料はすべて漢字にしているが、行政的な対応もあろうかと思うので、預からせていただきたい。

基本的な趣旨、位置づけについては提案の方向で進めるということにさせていただきたいと思う。

【議事の(3)：計画策定の背景について】

〔東川部会長〕

計画策定の背景の「1 社会環境の変化とスポーツ」については、前回7項目で提案したが、より分かり易くするために今回は5項目に整理させていただき、特に広島市の現状や広島らしさということからまとめた。

さらに「2 広島市のスポーツの現状」ということで4項目に整理し、これらのことを踏まえて4つの主要課題を設定した。これからの社会で何を大事にしないといけないかとい

う視点でまとめている。

例えば学区体育協会の見直しについて、学区体育団体連合会も活性化に向けて検討に入っているようであるが、その辺については、例えば公共性というものをキーワードにして検討してはどうだろうかと考えている。

広島市のスポーツの現状の内容については、4つの主要課題につながる形になった。それと、社会環境の変化とスポーツの中では、これからの社会とスポーツを考えた時に、例えば「共生」というキーワードを大事にした現状の捉え方も必要ではないかと思う。そこを上手く反映させる、あるいはそういう切り口から広島の現状を見ていくことにしたい。

平成17年に作成した素案では、データを詳しく説明するような現状の捉え方であったが、今回の計画は、できるだけ簡潔にしようということでもまとめている。

第5次広島市基本計画でも出てくるが「障害者スポーツ」ということが柱となっている。「障害者のスポーツをどうするのか」や「現状はどのようになっているのか」ということについて触れているものは、色々な自治体のスポーツ振興計画を見てもほとんどない。「障害者」「高齢者」という文言は出てくるが、現状はどうかということについては、曖昧なところがあったことから、広島市としてはその辺も現状として大事にした方がいいと思い「障害者スポーツ」の部分にも触れている。

【議事の(4)：計画の基本理念等について】

〔田川委員〕

イメージ図は、かなり簡素化した表現になっているが、4本柱を束ねている力は何なのか、それが「する」「みる」「ささえる」という力だと思う。この中には表現されていないが、束ねる力が目標に表れていくのだと感じる。

〔東川部会長〕

「それぞれが連携し一体となった」という表現をしているが、そこに「お互いが支え合って」ということも入った方が分かり易いかもしれない。

【議事の(5)：推進施策について】

〔中野オブザーバー〕

新体力テストについては、取組を始めたばかりであるが、数値ばかりにとらわれていると、中身の問題にまでいかなくなり数字ばかり追ってしまう。学力検査もそうであるが、平均点にばかりこだわるなどの問題点が指摘されており、体育もそういう方向にいかないように数値にばかりとらわれないようにしていきたい。

それと、指導者の問題が深刻である。外部指導者の招へいなどがあるが、予算的な問題もあるため、成績がなかなか伸びていかない。また制度の啓発ができていないため、指導者との連携など制度の運営も円滑にいけない状況である。地域にたくさん指導者はいるが、上手く活用できていない。本来は学区体育協会などをお願いして学校で部活動を指導してもらおうとか、一般の人に学校に来て指導してもらいたいが、日程調整が難しく効率的に運ばないのが現状である。学校も地域に出て色々なことを学ばなければならないと思っている。これからもこうした課題を含めて検討していきたい。

また、小中連携や中高連携などスポーツに限らず連携する学校が増えてきている。子どもの活動の状況を見ると、小学校から中学校、中学校から高校につながっていかないという現状があり、そういったところでの連携ができればいいと思っている。

〔東川部会長〕

数値を目標として出していくとそこにとらわれてしまうということがあるので、扱いに注意しながら十分に検討しなければならないと思う。その数値にうまく見合った施策の中身、後押しするような追い風となるような内容を考えていかなければならないと思う。

「学校における体育・スポーツの充実」を見ると、現在の取組を「継続」というものが多いように思うが、異校種間のスポーツ交流の実施であるとか指導者の確保といった時に、もっとそれが拡大するために、どのように取り組んでいくのか、次へのステップを検討する必要があると思う。交流をただ実施していくのであれば従来どおりとなってしまうが、現実問題、困っているところもある。そこをどうクリアしていくのか一歩踏み込んでほしいという意見であった。これも宿題であろうかと思う。

〔萩原委員〕

学区体育協会は、小学校では指導することができているが、中学校では難しい面もある。小学校は学校開放事業など地域に密着しているので入りやすい。

〔東川部会長〕

小学校と学区体育協会はつながりが強いが、中学校はそれほどつながりがない。どうやって上手に橋渡しをしていくのかということも振興計画の中に盛り込めるのではないか。

〔萩原委員〕

中学校の場合、3学区一緒になるため連携が難しい。

〔西野委員〕

すべての人にスポーツを身近に感じてもらうことが大切である。それをどう感じてもらうのかという時に、「場所づくり」で言えば、実際に実施する意味での場所づくりも必要だと思うが、「チャンスという意味での場所づくり」つまり身近な体力づくりの場や誰もが参加できる大会が必要ではないかと思う。例えば、退職されて家にいる方や高齢者で、最近体を動かしたいと思っている人がいる。また、放課後などの時間を利用した体力づくりの場がもっと身近にあるといいと感じている子どもがいる。

スポーツを身近に感じてもらうため、広島市では、スポーツ・レクリエーションフェスティバルが開催されているが、何か目標があるとやる気になるのではないかと思う。

〔東川部会長〕

「チャンスとしての場所づくり」という新しい言葉を頂いた。施設ではこれまで「使いやすい施設」や「多様な活動形態に見合った施設の運用」ということができてきているが、今の西野委員の意見では、身近な施設という面での「スポーツ施設の整備・充実」という視点で考えていかなければならないと思う。ハード面に、そういったところも組み込んでみてはという意見だと思う。

〔鍋島委員〕

全体を見させてもらったが、ニーズをしっかりと把握し、きれいに整理されている。

私は、10年先を考えた時に、これから検討に入られる「オリンピック招致」というのはタイムリーでアピールとしては非常にいいことだと思う。

10年先にオリンピックを開催するということは、計画の基本理念に近づくような形が出てくるのではないかと思う。商業主義ではなく、地方都市でもできる正に市民レベル、あるいは手づくりレベルでの再編という形につながっていくのではないかと思う。

中身から言えば、広島は平和を訴えるということで、広島・長崎という2都市の共同開催の形が出てくるが、これはオリンピックなのできちんとした規定があることから難しいと思

う。これからは手づくり、あるいは我々ができる範囲でのオリンピックが検討されるのではないかと思う。

そういうことを考えてみると全体的な方向についても、10年先は今までのように「行政の人に方向を出してもらおう」「学校に任せる」など、これまで我々は人任せにすることに馴染んでしまっているのではないか。そういう意味では、10年先というのは自分たちがスポーツの準備をし、自分たちが実施し、そして次につなげて継続していくようなスポーツ環境というものを作っていかなくてはならないと思う。オリンピックの招致を検討しようとする広島市なので、お客さんのスポーツではなく、自らが実施していくスポーツに切り換えていくということがベースになるのではないかと思う。今までは、あれもこれもということであったが、市民レベルの、手作りレベルのイベントなど自分たちで作っていく姿勢が感じられればよい。

二つ目に、職場でのスポーツ・レクリエーションが結構盛んであるため、職域的な要素が入ればよいのではないか。それと、目標値の設定に当たっては、市民のニーズだけではなく、全国レベルよりもっと高くするなど野心的な、高めの目標数値を設定するべきではないか。

〔東川部会長〕

企業の施設関係については、まったく入っていない。これは宿題として検討しなければならないと思う。

昭和57年の広島市のスポーツ施設整備計画の報告書を作成する時に自分も関わったが、当時、商工会議所が広島市内の企業所有のスポーツ施設を開放しようという報告書を作成しており、それを基にして書いた記憶がある。その後職域の施設から地域の施設に移っていったことから、職域の施設という流れがなくなったが、新たな視点として、またスポーツ施設の整備という新たな課題として入ってくると思う。

〔鍋島委員〕

大きなスポーツイベントを誘致するとなると、ボランティアを募らなければならないと思う。都道府県駅伝でもロープを持っている人がいるが、スポーツ少年団の子どもたちに、指導者に習うだけではなくて、時にはロープを持ってボランティアとしてイベントに参加してもらってはどうか。指導者は、ボランティア的なことについては、指導していないのではないかと思う。将来の国際大会を考えると、広島はたくさんのスポーツボランティアが必要だと思う。

〔小野副部会長〕

体力測定について、体育指導委員も体力測定員という資格を取るために、市や県で研修して資格を取り、県から1～2週間以内に、子どもたちを集めて体力測定をするよう依頼があり各区で実施したことがあった。また、新しいスポーツが出れば公民館まつり等の場で、子どもたちに紹介している。もっと体育指導委員が活動する場を作ってほしい。

また、地域におけるバレーボール等の指導者の確保についても課題だと思う。

〔東川部会長〕

体育指導委員の活用や活性化で言うと、実際の経験を踏まえながらどう充実させていくかということになると思う。

〔阪田委員〕

指標を見ながら、広島らしさが出てオリンピックや国際大会につながる何か訴えるものがほしいという思いがしていた。広島らしさをアピールするオリジナルのものが必要だと思う。例えば三世代でできるスポーツ教室を組んで実施すると、その中で一番年配者が指導者にな

ることで、指導者の発掘につながっていくと思う。顔を知らないところへボランティアで指導に来てもらえない。その意味では、三世代で参加できるイベントも必要だと思う。具体的に言えば、平和マラソンであるが、記録に挑戦するグループ、団体で出るグループ、家族で出るグループ等色々ある。これはおもしろい組分けであり、これを何かに生かすことができれば、広島市民が一つになって楽しめるものになるのではないかな。

自分の学校では、児童の体力テストの結果が悪かったため、ボールを一人一個ずつ持たせたら変わってきた。これは誰かが仕掛けないとできないと思う。今の中学生は、高校に進学したら、サッカー、野球、バレーボールは受け皿があるため続けることができるが、その他の競技については県外に出て行く。全国で活躍している選手をみると広島出身であることもある。

「スポーツが好き 笑顔が好き 広島が好き」になるように、三世代でできるイベントなどを実施してもいいのかもしれない。広島にしかできないものに取り組んでみることも大切だと思う。

〔東川部会長〕

広島市のオリジナルをどう出せるのかということだと思う。具体的な例も出されたので計画に盛り込むことも考えられると思う。

また、現状でもジュニア選手の育成が課題であると書いているが、受け皿のことについては触れていないのでこれも課題になると思う。

〔崎田委員〕

まちの活力創出に向けたスポーツの振興の一つに、スポーツと平和に関する取組があればよいのではないかな。具体的に「スポーツと平和」と言っても何をするのかというところすごく難しい問題である。例えばスポーツ団体の平和への貢献が推進されるといいと思う。また、団体の規約の中に平和に対する貢献について記載されている団体もあるので、それを参考にするといいと思う。また逆に平和団体のスポーツ活動を推進すればスポーツと平和というつながりが深まっていくと思う。広島と言えば平和と切り離せないと思う。

〔曽根委員〕

先ほど推進の方向性について説明していただいたが、大変上手にまとめられて素晴らしいと感じた。これはこれで納得しているが、基本理念とその実現に向けての概念図がどうもスッキリしない。すごく平凡である。平凡が悪いということではない。他都市の計画の構成を見ていたが、どこも似たり寄ったりである。国の計画を見ながら作成しているため、似たり寄ったりでいいとは思いますが、少し書き方の視点を変えると、目新しさを示すことができるのではないかなと思う。その際に、方向性については原案をベースにしながら、少し組み替えるとまた新しいものができてくると思う。

基本理念（案）の部分であるが、図の四つの筒が一つになるというのは、あまり目新しいものではない。スポーツ政策はどちらかというと、予算をつけていくのは二番手三番手だと思うが、そうした時にせっかく作った計画の実現性を考えると、総合計画のように他の分野と一緒に実施するようなものであると可能性が高いと思うので、他の分野とセットになりやすいような基本理念の書き方がいいと思う。例えば、概念図の4つの筒の矢印の先の部分は、「人が輝く新たなスポーツ環境の充実」「笑顔あふれるスポーツによる活力ある都市の創造」「多様なライフスタイルにあったスポーツ実践やスポーツ振興」「スポーツで結ぶ広島のネットワーク」などに変えることもできるのではと思う。

また、キーワードは「環境」「都市づくり」「スポーツ実践」「ネットワーク」のようなも

のが縦軸とすれば、横軸にはジュニア、子ども、高齢者、市民、プロスポーツ、アスリート、障害者というものがきて、その縦軸に対して横軸の人達がどこでどのように当てはまるのかを見て行く。その中でも高齢者であれば、高齢者の中で「する」「みる」「ささえる」それがスポーツ環境の中で、どのように組み込まれていくのかを当てはめていくと、また違った面や欠けている面が見えてくるのではないかと思う。また「環境」とか「平和」などは他の部分とセットにしやすいと思う。組み直しをするといいものが出てくると思う。

〔東川部会長〕

今頂いた意見を踏まえながら整理していき、方向性がより見える形になればいいと思う。これも課題としたい。

〔田川委員〕

各項目とも詳細に渡って網羅された内容になっているが、施策の分類の仕方については検討した方がいいかもしれない。4本柱の束ね方、あるいは束ねる力は何かと考えたとき、「スポーツが好き 笑顔が好き 広島が好き」というこの3つの力が束ねる力になるのではないかと思う。

例えば、「スポーツが好き」ということと言えば、スポーツが好きになるような環境づくりをするにはどうすればいいのか、都市づくりをするにはどうすればいいのか。出てくる言葉は身軽、手軽さ、身近、気楽さということになると思う。そうすると身近で手軽な環境づくりとして、これからのスポーツセンターをどのように見ていけばいいのか、あるいは公園や道路等ウォーキングを楽しむための都市づくりとはどうあるべきかという部分に発展していくと思う。

「スポーツが好き」は、好きになるには何が必要なのかという視点で、「笑顔が好き」は、仲間づくりやボランティア、共に支えるといった視点で考える。それらが平和と結びついて「広島が好き」ということに発展していくと思う。

今ある項目を変えるということではないが、こうしたことに想いを寄せながらまとめていくと素晴らしいものになると思う。「スポーツが好き 笑顔が好き 広島が好き」を実現していくためにはどういう要素が必要なのかということから項目をみたら身軽さ、手軽さということになるのではないか。それが共に楽しもうということになるのだと思う。

〔東川部会長〕

4つの基本方針の中に具体的な推進施策があるが、広島らしさを出していく上で、「スポーツが好き 笑顔が好き 広島が好き」というキーワードをまとめるような、そういう視点から見ていくと、それぞれの項目でどのような課題、あるいは深めなくてはならないことがあるのかという見方をしてはどうか。

何か貫いていく柱、あるいは背骨になるものは必要だと思う。それを今後どう取り入れられるか考えたい。このことは、重点施策と関わってくると思う。押しなべて同じウエイトではなく、重点施策の「てこ」になってくると思う。

今日は、全体的な部分については概ね皆さんから賛成をいただいたと思う。

それでは、推進施策の中の重点施策についてであるが、現在、例として3つ挙げている。オリンピックのことについては、現在、検討委員会で検討することになっていることから、振興計画には反映できないが、重点施策の部分でもう少し「広島らしさ」を出せないかと思っている。それと数値目標の設定をどうするのも重要である。

〔曽根委員〕

「広島らしさ」とは一体何なのかである。重点施策の中では「学区体育協会の活性化」が例として出ているが、広島にしかないから広島らしいのか、もう少し考える時間がほしい。
〔東川部会長〕

重点施策や目標値の設定については、次のスポーツ振興審議会の全体会の中で方向性として出せればと考えている。どう集約できるのかはこれからのことになる。

委員の皆さんには、もう一度資料を見ていただいて、全体的なことについての意見があればいただきたい。特に、重点施策や目標値についての部分と、もしいいアイデアがあれば基本理念についても意見があれば頂きたい。

〔曾根委員〕

計画策定の背景であるが、「社会環境の変化とスポーツ」の部分で、5つ挙げられているが、これに対応したスポーツ振興をしていこうとしているのであれば、これに対応した基本理念をつくり、そしてこれに対応した重点施策をつくるということも考えられる。

〔東川部会長〕

それも一つの考え方だと思うし、それぞれの項目で一つ一つ考えていくというやり方もあると思う。いずれにしても筋が通っているかどうか精査しなくてはならないと思う。

それでは、重点施策や目標値等の意見については、来週30日を目処に事務局にいただきたい。

また、私も事務局と今日いただいた意見を参考にしながら案をつくり直してみたい。

【閉会】

〔東川部会長〕

今日は大事なところを話し合うことができた。今後とも委員の皆さんの力をお借りしたい。